

地域経済季報

◎令和3年10～12月期
松江商工会議所

総評

今期は、新型コロナウイルス感染症の影響は根強く残るものの、ワクチン接種効果もあり首都圏を中心とする緊急事態宣言は解除された。とりわけ期間中後半には、当地における感染者数はほぼ発生しない状況となった。それに伴い人流も一部改善したことから、観光関連産業においては回復の兆しがみられた。他方で、建設業におけるウッドショックに起因する木材価格の高騰や、製造業・小売業等の関連業種に影響を及ぼしていた世界的な半導体不足については、依然として解消が為されず深刻な事態となっている。また、飲食業においては、人数制限が徹底されるなど、一部店舗では週末や忘年会時期などでは満席になるなど改善傾向がみられた。来期は、同感染症のオミクロン株の感染拡大状況に大いに左右されると予想される。引き続き政府による思い切った財政出動等の景気刺激策は勿論のこと、官民一体となった気運醸成に取り組むなど、2022年の幕開けがアフターコロナを見据えた新たな段階へと踏み出すきっかけとなることを期待する。

			前期状況 (4～6月期)	今期状況 (7～9月期)	来期見通し (10～12月期)	調査事業所のコメント ※2021年12月時点のヒアリング調査をもとに記載しております。
建設業			➡	➡	➡	今期は、公共工事については業種、規模により違いはあるものの概ね前年度並みに推移。民間工事については小規模の工事が多く、売上確保のために多くの工事をこなす必要があるため、人員確保が課題となっている。ウッドショックによる資材高騰、半導体不足による設備機器の納品遅延等の外的要因により多大な影響を受けている。来期は、建設資材の高騰と労務単価の値上がりに伴い、昨年と比較しても建設コストは急激な上昇傾向にあり、今後の官民の建設投資にも大きく影響すると思われる。
製造業			➡	➡	➡	今期は、半導体や部品不足の影響により納期の長期化、発注があっても受注が難しい状況が続いた。前年同期比では改善している企業も多いが、コロナ禍前の水準には戻っていない傾向にある。来期は、材料のさらなる高騰や納期の長期化に加え、電気、油、ガス料金の上昇からコストアップが避けられない。県外との営業活動の再開、展示会への参加に取り組みたい。
卸売業			➡	➡	➡	今期は、宿泊業界でお客様が戻ってきたことで一部業界では持ち直しが見られるものの、一方で半導体不足などの影響で動きの悪い業界もある。来期は、宿泊業界はワクチン接種が進んだこと、感染者数が落ち着いていることにより需要の持ち直しが見込めるが、その他業種では楽観視できる要素がそこまで見込まれない。
小売業	衣料品		➡	➡	➡	今期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による緊急事態宣言が明けたものの、外出控えによる来店客数の減少、不要不急の支出を控える消費マインドの冷え込みが続き加えて、ニットセーターやコート等の秋・冬物の厚物衣料売上上りが鈍く、売上は前年同期比で減少。来期は、コロナウイルス感染症拡大の影響による消費の先行き不透明感が一層強まると思われること、冬物衣料の動きが鈍いと予想されるが、セールの時期になるので購買意欲が上がることに期待。
	家電		➡	➡	➡	今期は、新型コロナウイルス感染症第3波の影響を受けた昨年同期と比較すると売上は増えている。開催が出来なかった展示販売会についても一部では再開の兆しがみられる。他方で、世界的な半導体不足により、給湯器やカメラ関係を中心に入荷遅れが生じている。来期は、新生活需要が見込まれる一方で、同感染症の再流行による影響も懸念される。業界としては既に成熟しており、技術革新等の好材料がない限りは急激な成長は難しいと思われる。
	自動車		➡	➡	➡	今期は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大による世界的な車載半導体の不足や、部品の納品遅れにより納期遅延の傾向が続いており、新車登録台数は総じて前年同期比減少。来期は、コロナ禍の影響による先行き不透明感が依然あるものの、新車型投入効果や安全運転サポート車、低燃費車への買い替え需要に期待。
	総合量販店		➡	➡	➡	今期は、緊急事態宣言並びにまん延防止等重点措置の解除を受け、来店客数は増加傾向にあるものの、一昨年対比では7割程度。衣料品や化粧品においては大手ブランドの撤退もあり依然厳しい状況が続く。一方、高級装具やクリスマス装飾品等は比較的好調であり、未だ底堅い意識は強い。歳暮・年末商戦では早期特典やプレミアムチケット販売と合わせることで来店を促した。来期は、コロナ感染拡大の落ち着いたまま維持されることで、ワクチン接種者に対する行動制限緩和や帰省客による来店客数増加に期待。
	スーパー		➡	➡	➡	今期は、生鮮食品や衛生用品は緊急事態宣言解除による内食需要の落ち着いた前年からの反動により昨年比では消費は減少傾向にあるものの、2年前と比較すると堅調に推移していることから以前までほど外食需要が戻っていないと感じる。来期は、今後の感染症の拡大など外部要因からくる消費マインド・市場動向の流れがどのように影響があるのか依然として不透明な状況が続く。
	特産品		➡	➡	➡	今期は、緊急事態宣言並びにまん延防止措置が9月末に解除されたことから、来客数、売上ともにコロナ前と比較して9割前後と好調に推移。昨年同期は地域共通クーポンやしまねクーポンの利用が売上の多くを占めたが、今期はクーポン等がない中での回復であった。また、コロナ禍では、低調に推移していた和菓子の売上も好調に推移し、県外旅行者による消費が見受けられた。来期は、Gotoトラベルの再開による観光オフシーズンでの消費喚起に期待する。
	飲食		➡	➡	➡	今期は、2次会やカラオケが主体の店舗などではまだ厳しい面も見られ、コロナ前と比較するとまだまだであるが新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が落ち着き、飲食にかかる人数制限も11月に撤廃されるなどしたため、一部店舗では忘年会時期や週末などでは満席になるなど改善傾向がようやく表れてきた。来期は、感染症が落ち着いた状況が続くことが前提となるが、自粛傾向が強かった新年会や歓迎会などの需要が戻ることにより期待。
サービス業	旅館・ホテル		➡	➡	➡	今期は、緊急事態宣言並びにまん延防止等重点措置が9月末に解除されたこと、神在月間関係のイベントの追い風を受けて好調に推移し、観光宿泊数はコロナ前の8～9割程度回復した。一方、ビジネス利用は伸び悩み、低調に推移。来期は、観光オフシーズンに入るが、GoToトラベル事業の再開をはじめ、行政が打ち出す施策の後押しにより、近隣都市からの観光需要の喚起や卒業旅行による宿泊客数増が見込める。
	運輸・旅客		➡	➡	➡	今期は、夜利用や観光客需要が少しずつ戻りつつあり、タクシー利用については対昨年の9割程度まで回復したものの、特に観光客については団体よりも個人旅行として自家用車を利用する傾向もあり、コロナ前の一昨年と比べると依然厳しい状況が続く。運業種では前期に引き続き、従来からのお歳暮等の需要に加え、通販利用者の増加により配送需要が依然高く、人手不足の状況が続く。来期は、新たな変異株の状況で左右されると予測し、見通しは不透明。

●本調査は新型コロナウイルス感染症のオミクロン株の感染拡大前に行っております。予め込みおきください。 ※売上の前年同期比について ➡ ➡ ➡ により表しています。